

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬

基準日	
定時株主総会・期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日

株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
---------	--------------------------------

郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL (0120) 78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
-------------------	--

■住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

■未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

■「配当金計算書」について

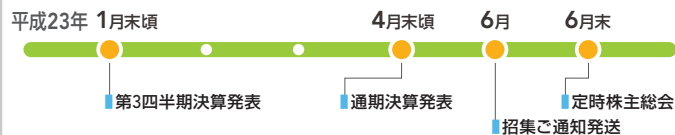
配当金お支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取の株主様につきましても、本年より配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

今後のIRスケジュール(予定)

当社では迅速かつ正確な情報開示を心がけるほか、さまざまな投資家の皆様に向けた活動も行っています。以下は当社の今後の平成22年度のIRスケジュールになります。ご参考の上、引き続きご支援いただけますようよろしくお願いいたします。
なお、予定は予告なく変更される場合がございます。



株式会社リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込一丁目3番6号 TEL (03) 3777-8111

WEBサイトのご案内

当社では、最新のニュースやIR情報、製品情報など当社をご理解いただくための様々な情報をご提供しています。

- 社会的責任(CSR)
- 環境経営
- IR/財務情報
- ニュースリリース

リコー

<http://www.ricoh.co.jp/>



この報告書は、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン(カラーユニバーサルデザイン)として認定されました。



RICOH



平成22年度 中間 事業のご報告

平成22年4月1日 ▶ 平成22年9月30日

Contents

ニュースヘッドライン	1
株主の皆様へ	3
当第2四半期までの連結業績の概況	5
連結財務諸表	9
会社概要	11
リコーの環境技術開発への取り組み	12
株式の状況	13
株主様向け企画のご報告	14

証券コード：7752

リコーグループでは、当上期もさまざまな取り組みを行ってきました。ここではその主なものをご紹介します。

News Headline
2010.4.01-9.30

01 国内販売体制を再編し、リコー・ジャパンを発足

2010年7月、国内7つの販売会社と株式会社リコー販売事業本部の機能を統合した「リコー・ジャパン株式会社」が発足しました。新会社は、これまでリコーグループが全国で培ってきた社内実践のノウハウやソリューション提案力などを融合させ、グローバルに発信するとともに、お客様の企業価値向上にお役立ちできる新しい価値をお客様とともに創り上げ、お客様に安心・満足・感動していただける企業を目指しています。



02 デジタルカメラ「CX4」を発売

2010年9月、広角・高倍率ズームを搭載したデジタルカメラの新製品「CX4」を発売しました。道具感と機能美を追求した新デザインのボディに、強化されたイメージセンサーシフト方式の「手ブレ補正機能」、カメラが被写体を自動で追尾してピントを合わせ続け、撮りたい瞬間にシャッターを押すだけで最適なピントと明るさで撮影ができる「被写体追尾AF」を新たに搭載。10月からは俳優の向井理さんをイメージキャラクターとして起用したTVCMもオンエアします。



03 100%自然エネルギーで点灯する広告塔が完成

ニューヨークのタイムズスクエアに100%自然エネルギーで点灯する広告塔が完成し、告塔は環境経営の実現を目指しました。この広コーらしい広告塔を造れないか、という発想から実現により得られた電力のみを蓄電し点灯します。100%自では、大阪淀屋橋に設置したものに続く第二弾になり

する広告塔が完成

ギーで点灯する広告塔が完成し、告塔は環境経営の実現を目指しました。この広コーらしい広告塔を造れないか、という発想から実現により得られた電力のみを蓄電し点灯します。100%自では、大阪淀屋橋に設置したものに続く第二弾になり

ECO トピックス

ハーバード・ビジネス・スクールが、リコーグループの環境経営を採用

米国ボストンにあるハーバード・ビジネス・スクール (HBS=経営大学院)のAdvanced Management Program (AMP)において、リコーグループの環境経営が、ケース・スタディ教材として採用されました。AMPは、世界の企業の優れた経営事例を取り上げ、週6日8週間寝食を共にしながら最新の経営学を討論形式で学ぶ集中コースで、学生たちは各国の企業の経営幹部あるいは幹部候補です。2010年にサステナビリティと経営に関する初のビジネス・ケースが取り上げられることになり、リコーが第1号に選ばれました。

HBSがリコーの経営層や事業所を取材し作成したビジネス・ケースにより、2010年5月18日、リコーから谷達雄社会環境部長も参加して授業が行われました。

参加した学生は世界40カ国からの140名で、事前に配布された教材を精読し、提示された検討課題について前夜に少人数のグループごとに予備討議を行ってから授業に臨んでおり、リコーグループの2050年長期環境負荷削減目標や環境経営活動に対し、鋭い洞察に満ちた意見を交わしました。

「2050年の社会変化を先取りするのは企業にとって必要なこと」「環境経営が競争力向上につながることを消費者、投資家にもっと伝えるべき」など、出された意見の多くがリコーの環境経営に共感するもので、経営をよりレベルアップさせていくためのディスカッションが活発に繰り広げられました。



※HBSの授業で実際に使われているリコーのケース・スタディ教材(英文PDF)は、Harvard Business Reviewのオンラインショップから\$6.95でダウンロード購入することができます。

<http://hbr.org/product/ricoh-company-ltd/an/610053-PDF-ENG?Ntt=Ricoh>

企業CM『愛するを、品質に。』

TVCMのご紹介



このCMでは、お客様を愛し、そしてお客様を支える自分の仕事を愛することでRICOH Qualityを追求する姿勢を、「愛するを、品質に。」のキャッチフレーズで表現しています。出演の向井理さんにはわずかな動きと表情で、真面目で誠実な人柄から滲み出る存在感を、またCMソングに選んだ「流星」を透明感のある声で歌う手島葵さんには、愚直なまでに真っ直ぐでひたむきな生き様を、それぞれ表現していただきました。働く人たちに応援する物語仕立ての内容となっています。



インドの事前調査で、現地の起業家に話を聞くリコー社員

CSR トピックス

「社会貢献と事業の成長」を目指したCSRの取り組み

社会がグローバル企業に対して求める役割が、ある特定の経済活動の主体(経済取引、雇用、納税)から、持続可能な社会づくりを目指した「地球」や「人類」が抱える課題解決への貢献へと増大しています。このような環境変化の中、リコーグループが持続的に発展していくには、「持続性」と「事業の成長」が欠かせません。そのためには、「①社会的責任を果たす」「②最も変化・成長している領域でチャレンジし、イノベーションを起し続ける」ことが必要です。

こうした背景から、リコーは新たな取り組みを開始しました。年間3,000ドル以下で生活する貧困層(BOP=Base of the Pyramid層)の課題解決に繋がる商品・サービスを提供することで、貧困削減とビジネスの両立を目指す活動です。2008年10月からプロジェクトの検討を始め、対象国や現地パートナーの選定、事前調査などを行い、2010年10月からは、現地に社員数名が一定期間滞在し、現地に土着化して、真の困りごとと解決策(ビジネスアイデア)を現地の人たちとともに見つけていきます。今後も、社会と事業の両方にとって価値のある創造をしていく、新しいCSR活動に取り組んでいきます。



代表取締役 社長執行役員 近藤 史朗
代表取締役 会長執行役員 桜井 正光

株主の皆様には、ますますご清祥のことと心からお喜び申し上げます。

平成22年度第2四半期（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の報告書をお届けするにあたりまして、皆様からのリコーグループに対するいつに変わらぬご理解とご支援に厚く御礼申し上げます。

平成22年度第2四半期連結累計期間のリコーグループの連結売上高は、為替の円高影響などにより前年同期比1.8%減の9,708億円となりました。

当社株主に帰属する四半期純利益は、売上総利益率の改善と構造改革による経費削減効果などにより、前年同期比592.0%増の125億円となりました。

中間配当金は、前年同期と同額の1株当たり16円50銭とさせていただきます。

平成22年度の業績見通しにつきましては、景気の動向や為替の変動など不確定要素はありますが、売上高2兆200億円、当社株主に帰属する当期純利益350億円を目指しグループ一丸となって活動に邁進する所存です。

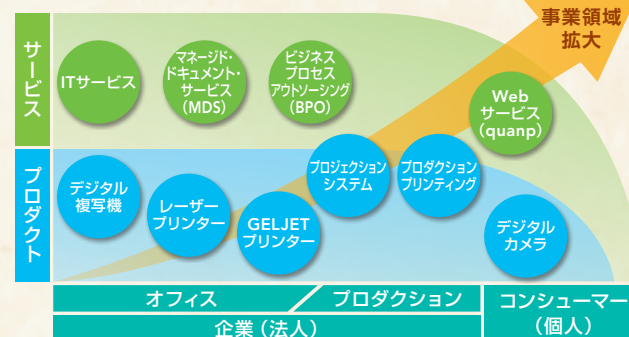
株主の皆様には、倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年11月

企業価値向上に関する基本的な考え方
- 「経済」「社会」「環境」の3つの側面から企業価値を向上 -



事業領域拡大の方向性
- サービスを中心に強化・拡充 -



リコーグループのビジョン

社会が企業に求める役割が多様化する中、リコーグループは、「経済」「社会」「環境」を同軸で捉えて、持続可能な社会の実現に向けたイノベーションに挑戦します。

平成20年4月から平成23年3月までを期間とする第16次中期経営計画においては、「21世紀の勝利者」（グローバルブランドの確立）をビジョンに掲げ、グループ経営の基本戦略として以下の5つを定めております。

- 1 狙いの事業領域でトップになる
- 2 環境経営を強化、加速する
- 3 Ricoh Quality を確立する
- 4 新しい成長領域を創出する
- 5 グローバルブランドを確立する

モノにコトを加えたリコーならではの価値を世界中のお客様へ提供します

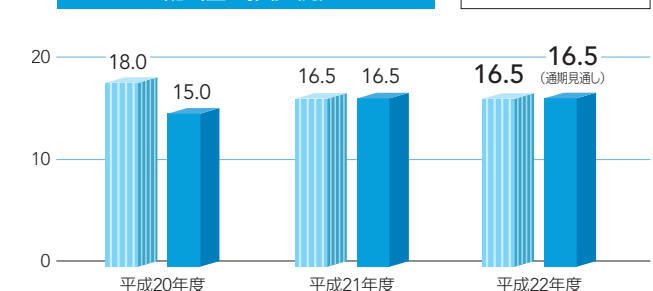
リコーグループは、画像機器を中心とした様々な製品や多岐にわたるサービスを通じて、お客様の生産性向上や知識創造を支援することで成長を続けることを目指しています。

お客様の価値基準の比重が「モノ」から「コト」へ、あるいは「所有」から「利用」へと移るなかで、ハードウェアとソフトウェアの組み合わせにサービスを重ねることで、お客様へ提供する価値を高めています。デジタル化やネットワーク化に対応した製品を拡充するとともに、サービスを強化し事業領域を拡張します。また、従来のオフィス市場に加えて、プロダクションプリンティング市場、コンシューマー市場、新興国市場もより積極的に開拓します。

連結業績ハイライト

	当第2四半期(累計)	平成22年度通期予想
売上高	9,708 億円 (前年同期比 1.8%減)	2兆200 億円 (前期比 0.2%増)
営業利益	380 億円 (前年同期比 171.6%増)	850 億円 (前期比 28.8%増)
税引前利益	280 億円 (前年同期比 314.8%増)	750 億円 (前期比 30.4%増)
四半期(当期)純利益 (当社株主に帰属)	125 億円 (前年同期比 592.0%増)	350 億円 (前期比 25.6%増)

配当金の推移(円)



当第2四半期までの連結業績の概況

主要連結財務データ

(単位：億円)

科目	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	第2四半期(累計)	通期	第2四半期(累計)	通期	第2四半期(累計)	通期見通し
売上高合計	10,659	20,916	9,887	20,163	9,708	20,200
うち海外	5,821	11,533	5,671	11,397	5,317	11,000
営業利益	650	745	139	659	380	850
税引前利益	588	309	67	575	280	750
四半期(当期)純利益(当社株主に帰属)	343	65	18	278	125	350
設備投資額	469	969	384	669	395	720
研究開発費	632	1,244	559	1,098	539	1,120
総資産	22,208	25,134	23,769	23,839	23,430	
株主資本	11,024	9,753	9,556	9,733	9,278	
株主資本比率(単位：%)	49.6	38.8	40.2	40.8	39.6	
1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益(単位：円)	47.56	9.02	2.49	38.41	17.24	48.24
1株当たり株主資本(単位：円)	1,519.08	1,344.08	1,316.96	1,341.45	1,278.84	
1株当たり配当金(単位：円)	18.00	15.00	16.50	16.50	16.50	16.50
(ご参考)為替レート(US\$)	106.15	100.55	95.56	92.91	89.03	84.52
為替レート(EURO)	162.69	143.74	133.24	131.21	114.14	112.07

(注) 1. 当社の連結財務諸表は米国会計基準に基づいて作成しております。
2. 1株当たり四半期(当期)純利益は期中平均株式数により計算しております。

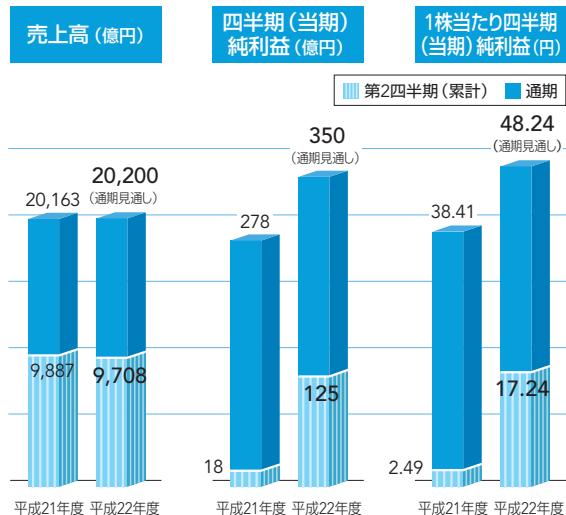
●連結業績の概況

- 1 高付加価値製品の売上増加
- 2 継続的なコストダウン活動
- 3 グループをあげた構造改革活動による経費削減

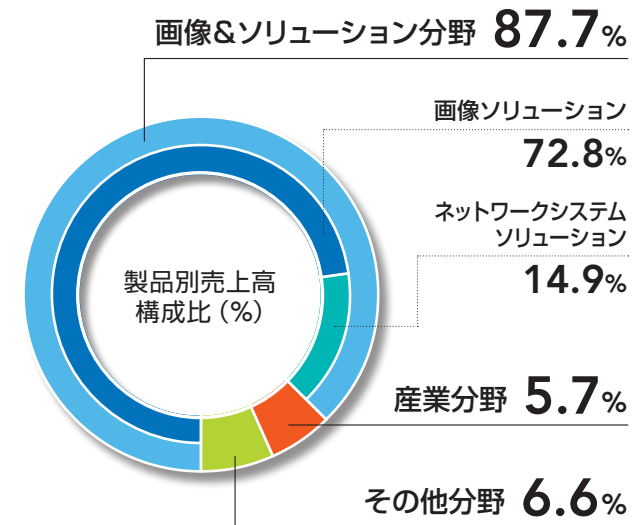
米ドル及びユーロに対する大幅な円高の進行をはじめ当社を取り巻く環境は厳しい状況でした。連結売上高は前年同期比で9,708億円と1.8%減少したものの、画像&ソリューション分野における高付加価値製品の売上増加や継続的なコストダウンの成果と、グループをあげて取り組んでいる構造改革活動の寄与による、販売費及び一般管理費の減少により、営業利益は、前年同期比で171.6%増加し、380億円となりました。

円高による為替差損により、営業外損益は悪化いたしました。税引前利益は前年同期比で314.8%増加し、280億円となりました。

以上の結果、当社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比で107億円増加し、125億円となりました。

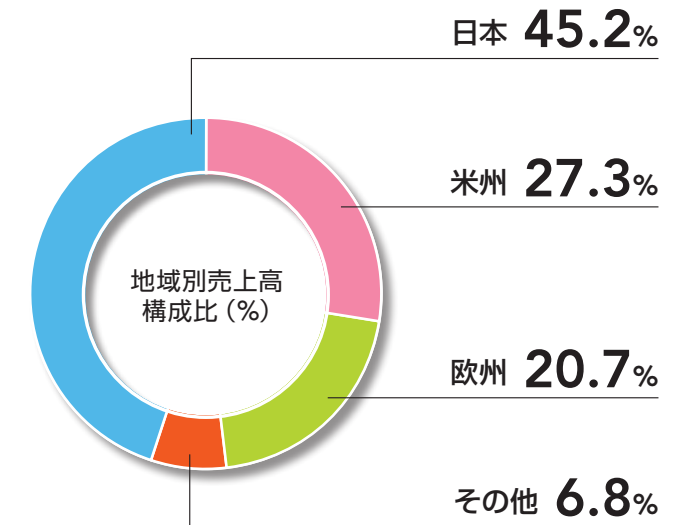


製品別売上高



製品別の詳細はP7からご覧ください。

地域別売上高



日本 4,390 億円 (前年同期比 4.1%増)
9,200 億円 (通期見通し)

国内経済は総じて緩やかな回復が続いているものの、依然不透明な状況が続いております。その状況の中、画像&ソリューション分野、産業分野、その他分野の全ての分野において、前年同期比で売上高は増加し、全体で4.1%の増加となりました。

米州 2,648 億円 (前年同期比 5.8%減)
5,344 億円 (通期見通し)

景気低迷や為替影響により、米州の売上高は前年同期比で5.8%の減少となりました。なお、為替の影響を除く試算では、1.2%の増加となりました。

欧州 2,010 億円 (前年同期比 11.1%減)
4,268 億円 (通期見通し)

欧州の経済は、ユーロ安による域外向け輸出の増加などにより、回復傾向が見られるものの、一部の国の財政危機懸念などから依然低い水準にありました。著しい円高ユーロ安の推移により、欧州の売上高は前年同期比で11.1%の減少となりました。為替の影響を除くと3.3%の増加となりました。

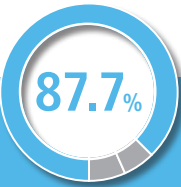
その他 658 億円 (前年同期比 10.2%増)
1,388 億円 (通期見通し)

中国をはじめとする新興国に牽引され、中華圏・アジア等のその他の地域においては、10.2%の増加となりました。為替影響を除くと14.0%の増加となりました。

製品分野別の状況

画像&ソリューション分野

8,509 億円 (前年同期比 2.8%減)



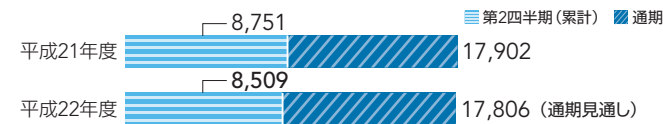
■ 画像ソリューション

デジタル複写機、カラー複写機、アナログ複写機、印刷機、ファクシミリ、ジヤソ複写機、スキャナ、MFP (マルチファンクションプリンター)、プリンター等の機器および関連消耗品・サービス・関連ソフト等

■ ネットワークシステムソリューション

パソコン、サーバー、ネットワーク機器、ネットワーク関連ソフト、アプリケーションソフトおよびサービス・サポート等

画像&ソリューション分野では、プロダクションプリンティング事業やソリューション事業などの新規事業の売上が増加しましたが、円高の影響により、売上高は前年同期比2.8%減の8,509億円となりました。なお、為替の影響を除く試算では、前年同期比3.3%増となります。



■ 画像ソリューション

7,066 億円 (前年同期比 5.2%減)

プロダクションプリンティングの売上やMFP・プリンターのカラー機の販売は堅調でしたが、モノクロ機の販売減少や円高により、売上高は前年同期比5.2%減の7,066億円となりました。



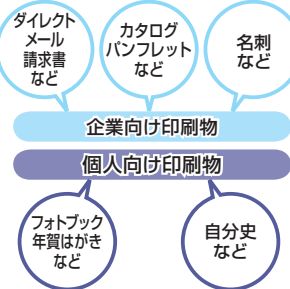
RICOH Business Close Up

画像&ソリューション分野

「必要なときに必要なだけ印刷」を可能にするプロダクションプリンティング事業

リコーのプロダクションプリンティング事業では、印刷物の多品種・小ロット・短納期といったニーズに対応した様々な製品・ソリューションを提供しています。例えば、お客様ひとりひとりの嗜好に合わせた広告を掲載したダイレクトメールの印刷なども可能となります。

こんなシーンで活躍！リコーのプロダクションプリンティング



漫画を使った会社内の小ロット印刷にも活躍

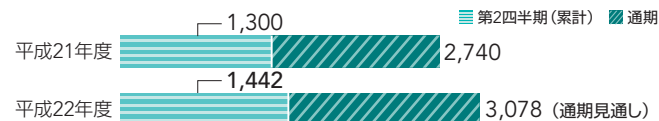


RICOH Pro C900

■ ネットワークシステムソリューション

1,442 億円 (前年同期比 10.9%増)

MDS (マネージド・ドキュメント・サービス) やITサービスなどのグローバル展開に伴う事業拡大により、売上高は、前年同期比10.9%増の1,442億円となりました。



画像&ソリューション分野

新規事業「プロジェクションシステム」の第一弾 IPSiO PJ X3240N

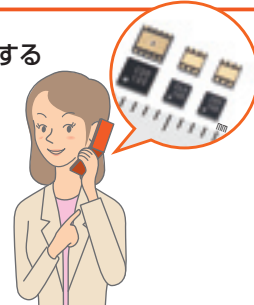


IPSiO PJ X3240Nは、高画質とコンパクト&軽量を両立。さらにネットワーク上で複数のパソコンから共有することもできます。リコーはプロジェクター単体の販売だけでなく、設置からメンテナンスまでワンストップで提供できることを強みに、事業を拡大していきます。

産業分野

携帯電話などの消費電力低減に貢献する電源 IC を提供

リコーの半導体事業では、小型・低消費電力の電源ICなどを提供しています。リコーの電源ICは携帯電話・スマートフォンやノートPCなどに幅広く採用されており、消費電力低減と安定動作に貢献しています。



コンパクトデジタルカメラ CX4 を発売 — その他分野



広角・高倍率ズームを搭載した「CX4」は、強化された手ブレ補正機能と高性能のノイズリダクション機能により、望遠や暗いシーンでの撮影でもクリアな高画質を実現。→詳しくはP1「ニュースヘッドライン」をご覧ください。

デジタルカメラ「GR DIGITAL」の発売5周年を記念して GR PARTYを開催しました。



産業分野

557 億円 (前年同期比 8.9%増)



サーマルメディア、光学機器、半導体、電装ユニット、計量器等

産業分野では、半導体事業、サーマル事業、光学ユニット事業および電装ユニット事業の売上高が前年同期に比べ増加しました。結果として、産業分野の売上高は前年同期比8.9%増の557億円となりました。



その他分野

641 億円 (前年同期比 2.7%増)

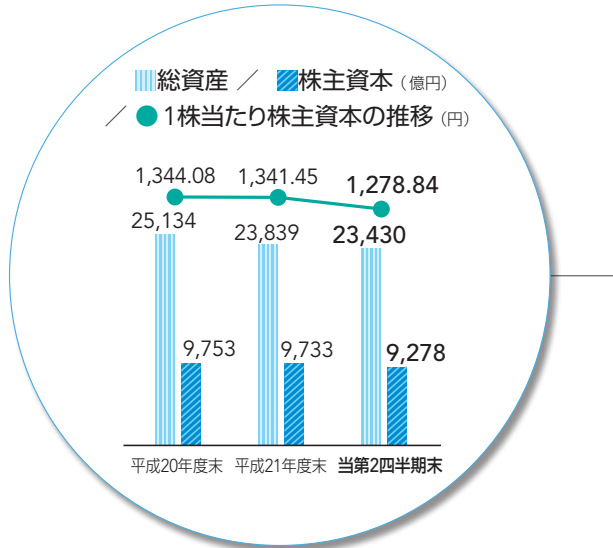


デジタルカメラ等

デジタルカメラなどの売上が国内を中心に増加しました。結果として、その他分野の売上高は、前年同期比2.7%増の641億円となりました。



連結財務諸表



四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 平成22年9月30日現在	前期末 平成22年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	1,155,718	1,144,612
現金及び預金	275,700	243,888
売上債権	636,255	667,614
たな卸資産	182,436	169,251
その他の流動資産	61,327	63,859
固定資産	1,187,329	1,239,331
有形固定資産	262,872	263,021
リース債権等	447,324	445,896
その他の投資	477,133	530,414
資産合計	2,343,047	2,383,943
【負債の部】		
流動負債	586,480	660,404
支払手形・買掛金	245,713	273,397
短期借入金	133,753	169,727
その他の流動負債	207,014	217,280
固定負債	776,636	699,665
長期債務	597,848	514,718
退職給付債務	139,980	140,460
その他の固定負債	38,808	44,487
負債合計	1,363,116	1,360,069
【資本（純資産）の部】		
株主資本	927,886	973,341
資本金	135,364	135,364
資本剰余金	186,083	186,083
利益剰余金	820,831	820,701
その他の包括損失累計額	△177,630	△132,051
自己株式	△36,762	△36,756
非支配持分	52,045	50,533
資本合計（純資産）	979,931	1,023,874
負債及び資本（純資産）合計	2,343,047	2,383,943

財務解説

総資産
平成22年6月22日に転換社債の償還準備等のために無担保社債を発行しており、一時的に現金及び預金が前期末に比べ増加しました。また、前期末に比べ、円高になったことにより外貨建資産の期末換算額が減少しました。結果として、資産合計は前期末に比べ408億円減少し23,430億円となりました。

負債合計
短期借入金などが減少し、無担保社債の発行により、長期債務が増加しました。負債合計は前期末に比べ30億円増加し13,631億円となりました。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) 平成22年4月1日～ 平成22年9月30日	前第2四半期(累計) 平成21年4月1日～ 平成21年9月30日
売上高	970,856	988,791
売上原価	567,938	590,589
売上総利益	402,918	398,202
販売費及び一般管理費	364,906	384,207
営業利益	38,012	13,995
営業外損益		
受取利息及び配当金	1,375	1,742
支払利息	3,911	4,071
その他費用	7,411	4,900
税引前四半期純利益	28,065	6,766
法人税等	13,594	3,874
持分法投資損益	△7	12
四半期純利益	14,464	2,904
非支配持分帰属損益	1,952	1,096
当社株主に帰属する四半期純利益	12,512	1,808

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

項目	当第2四半期(累計) 平成22年4月1日～ 平成22年9月30日	前第2四半期(累計) 平成21年4月1日～ 平成21年9月30日
■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	67,508	83,222
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△49,642	△53,480
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー	23,307	△61,628
換算レートの変動に伴う影響額	△9,279	△2,385
現金及び現金同等物の純増減額	31,894	△34,271
現金及び現金同等物の期首残高	242,165	258,484
現金及び現金同等物の四半期末残高	274,059	224,213

営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動によるキャッシュ・フローの収入は、前年同期比で157億円減少し、675億円となりました。主な要因は、たな卸資産の増加によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動によるキャッシュ・フローの支出は、前年同期比で38億円減少し、496億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動によるキャッシュ・フローの収入は、233億円となりました。主な要因は、無担保社債の発行によるものです。

会社の概況

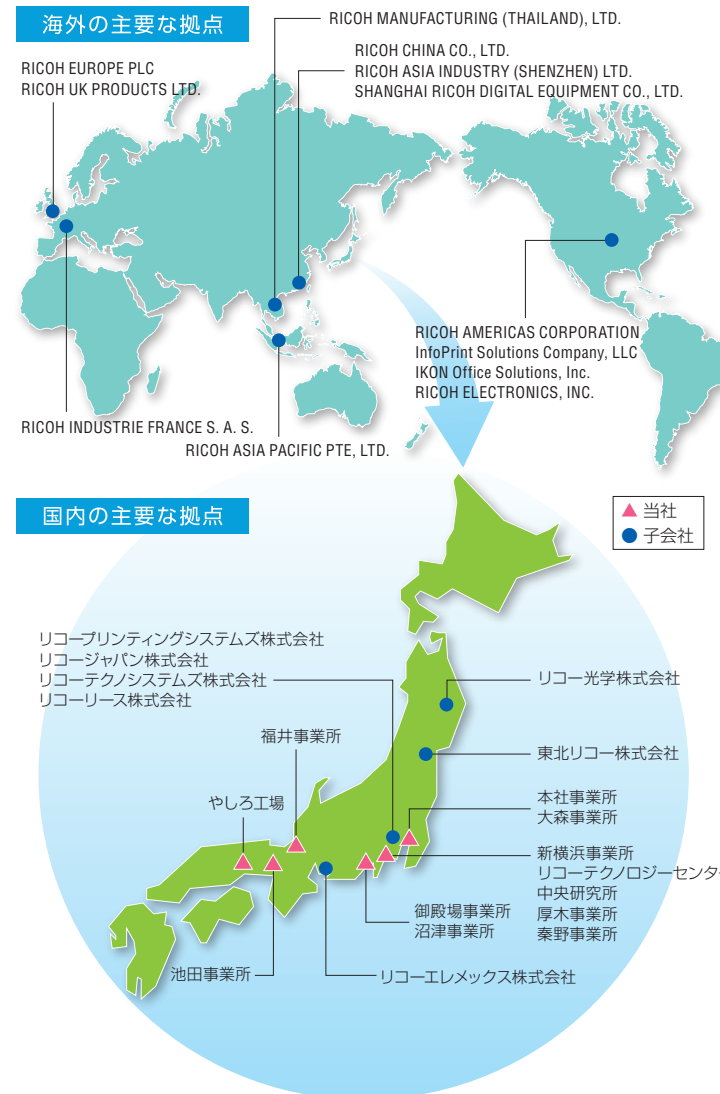
商号	株式会社リコー RICOH COMPANY, LTD.
本店所在地	東京都大田区中馬込一丁目3番6号 Tel. (03) 3777-8111
設立	昭和11年2月6日
資本金	1,353億6,478万9,556円
上場取引所	東京、大阪、名古屋、福岡、札幌、パリ
従業員数	10,532名

取締役及び監査役の状況

代表取締役	桜井正光
代表取締役	近藤史朗
取締役	中村高
取締役	我妻一紀
取締役	三浦善司
取締役	小林博
取締役	佐々木志郎
取締役	松浦芳正
取締役	稲葉延雄
取締役(社外)	細谷英二
取締役(社外)	梅田望夫
常任監査役	井上雄二
監査役	飯島成和
監査役(社外)	湯原隆男
監査役(社外)	柚木司

ネットワーク

リコーグループでは、販売・サポート / 生産 / 研究開発それぞれのグローバルネットワークを築き、「日本」「米州」「欧州」「中国」「アジア・パシフィック」の5種体制により、世界約180カ国で事業を展開しています。



リコーの商品・サービスを通してお客様の地球環境保全に寄与すること

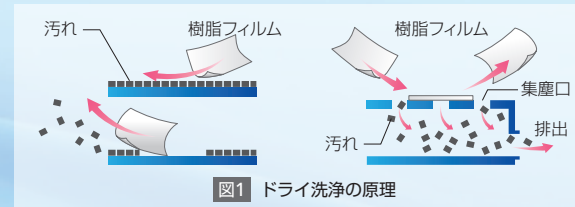
リコーの環境技術開発への取り組み

リコーは、製品のライフサイクルにおけるすべてのステージで、発生する環境負荷を低減するための技術を積極的に研究開発し、持続可能な社会の実現に貢献しています。その一つの成果として、水や溶剤をまったく使わないために環境にやさしい、リコー独自のドライ洗浄技術を開発しました。生産工程で使う治具やリサイクル部品の洗浄での応用が進んでいます。

ドライ洗浄技術

■ 技術の概要

本技術は、数ミリ角の樹脂フィルムを気流で飛ばして洗浄対象に吹き付け、その衝突・接触により、汚れを除去する技術です(図1左)。気流とともに除去された汚れのみが分離・排出され、樹脂フィルムは循環しながら繰り返し利用されます(図1右)。水や溶剤を使わないことに加えて、薄くて軽いフィルムは素材の使用量が少なく、装置内で繰り返し循環利用されるため、消耗品コストや環境負荷を大幅に抑えることが可能になります。



■ 技術の展開

リコーは、ドライ洗浄技術を使用した独自の洗浄装置を国内外の6カ所の生産拠点に展開しており、さらに多くの生産拠点、生産関連会社へと導入を拡大中です。ドライ洗浄技術は、使用するフィルムを選択することにより、トナー、フラックス以外の汚れにも幅広い応用展開が可能です。さらにリコーグループ内で培った実績をベースに、社外へも本技術を提供し、企業活動を通して経済価値を創出すると同時に、グローバル社会が抱える問題の解決に積極的に貢献し、社会および地球環境の持続可能性に貢献する取り組みを推進しています。

ドライ洗浄の応用展開事例

■ 事例1

トナーで汚れたコピー機の消耗品ユニットを回収しリサイクルする工程において、従来は水と洗剤を使用した超音波洗浄を行っていました。これを、ドライ洗浄技術を用いたトナー洗浄装置(図2)に置き換えることにより、排水レス化、洗浄後の乾燥レス化を実現し、環境負荷の低減、および生産性の大幅向上を達成しました。



図2 トナー洗浄装置

■ 事例2



図3 フラックス洗浄装置

自動はんだ付け工程で使用する治具が、はんだ付けに使用するフラックス(やに)で汚れるため、定期的に溶剤で洗浄していました。固着したフラックスをドライ洗浄技術で掻き取るフラックス洗浄装置(図3)を開発し、溶剤洗浄と置き換えることで環境負荷とランニングコストの低減を実現しました。

*リコーのホームページで各事例の紹介動画を公開しております。
<http://www.ricoh.co.jp/about/company/technology/tech/006.html>

株式の状況

株式の状況

発行可能株式総数	1,500,000,000 株
発行済株式総数	744,912,078 株
株主数	42,644 名

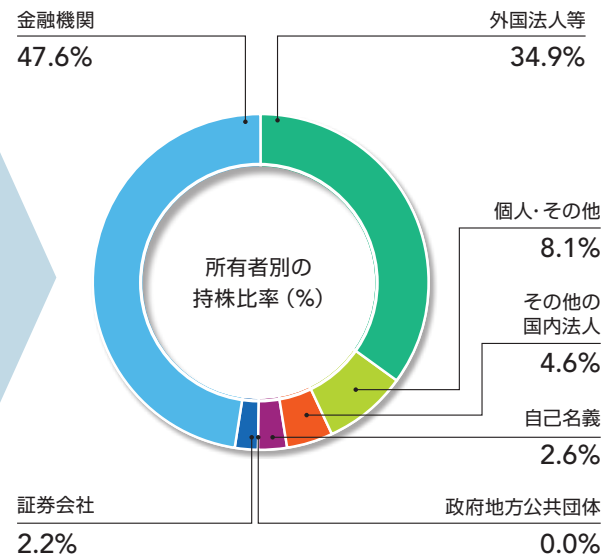
大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	61,446	8.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	48,334	6.66
日本生命保険相互会社	36,801	5.07
株式会社三菱東京UFJ銀行	35,943	4.95
日本興亜損害保険株式会社	18,198	2.51
財団法人新技術開発財団	15,839	2.18
ザ チェース マンハッタン バンク 385036	13,654	1.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	13,448	1.85
全国共済農業協同組合連合会	13,259	1.83
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	11,473	1.58

(注) 1. 上記のほか、自己株式が19,341千株あります。
 2. 当社への出資には、上記以外に日本興亜損害保険株式会社(日本マスタートラスト信託銀行株式会社に信託財産として委託している当社株式1,000千株(0.14%)があります。当該株式は、日本マスタートラスト信託銀行株式会社が株式名義人となっておりますが、議決権行使については日本興亜損害保険株式会社が指図権を留保しております。
 3. 出資比率は自己株式を控除して計算しております。

株式の所有者別状況の推移

	平成20年度	平成21年度	平成22年度 当第2四半期	
金融機関	株主数(名)	210	171	178
	株式数(千株)	384,119	360,762	354,897
外国法人等	株主数(名)	684	597	590
	株式数(千株)	238,825	257,347	260,007
個人・その他	株主数(名)	41,799	40,728	41,076
	株式数(千株)	58,562	58,478	60,624
その他の国内法人	株主数(名)	772	724	723
	株式数(千株)	34,268	34,006	33,962
自己名義	株主数(名)	1	1	1
	株式数(千株)	19,232	19,320	19,341
政府地方公共団体	株主数(名)	1	1	1
	株式数(千株)	5	6	6
証券会社	株主数(名)	59	59	75
	株式数(千株)	9,900	14,990	16,071
合計	株主数(名)	43,526	42,281	42,644
	株式数(千株)	744,912	744,912	744,912



株主様向け企画のご報告

リコーでは、株主の皆様へ当社に対するご理解を深めていただくため昨年より株主の皆様とのコミュニケーションを図る企画を開催いたしております。

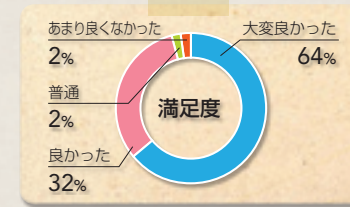
これらの企画には同封のハガキからご応募いただけます！

各企画の詳細な内容やご応募の方法は、同封のチラシ「2011年 株主様向け企画のご案内」をご覧ください。

「株主様アンケート」もごさいますのでご協力の程、よろしく申し上げます。

事業所見学会

2010年10月21日・26日、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様(各40名)を事業所見学会にご招待いたしました。当日は、本社にて中村専務執行役員の挨拶に続き、御殿場事業所に社員食堂・生産ラインをご見学いただきました。株主の皆様からは「社員一人一人の問題意識が感じられ素晴らしいことと思います。人を大切にすることで嬉しいです。」「純IT企業のイメージだったが、環境経営の考えや自然塾のことなど新しい発見がありました。」「環境に配慮した素晴らしい工場だと思う。」といったご感想を頂戴しております。



ラグビー観戦会

2010年9月18日(東京)、10月23日(大阪)、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様(各ペア150組300名)をリコーラグビー部 BlackRamsの試合にご招待いたしました。両日ともに株主の皆様の声援により、勝利を飾ることができました。株主の皆様からは「リコーの熱意を感じ、株主としても満足のいく企画でした。」「当日は天候もよくスリリングな試合が迫力を持って観戦でき感激しております。」「ラグビー楽しかった！ 応援団も家庭的ムードで明るく親しみが持てた。」といったご感想を頂戴しております。



リコーフィル演奏会

2010年7月11日、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様(ペア60組120名)を「リコーフィルハーモニーオーケストラ第48回演奏会」にご招待いたしました。株主の皆様からは「演奏者の皆さんの様子から、リコー社員さんのモノづくりに対する気持ちのようなものが感じられました。」「家庭的な雰囲気のコンサートで、リラックスして楽しめました。」「夫婦でたいへん楽しく過ごさせていただきました。リコー様の素晴らしい企業文化の一端を拝見したように思います。」といったご感想を頂戴しております。

